東京高連ニュース

発　行
東京高齢期運動連絡会
電話03(5956)8781
FAX03(5956)8782
Em:tokyo koureiki @gmail.com
発行人：菅谷　正見

第38回日本高齢者大会を成功させ平和と尊厳を築き上げるたたかいの新しいスタートを切りましょう！

第38回日本高齢者大会inさいたまの開催まで一か月となりました。

開催地さいたまをはじめ、東京・近県の各地で、諸団体の取り組みが進められています。

東京からの参加者組織目標は一千名です。各団体・各組織の一段の取り組み強化をお願い致します。

自民党新総裁に高市早苗氏が就任しました。一般マスコミは、物価高にあえぐ国民の暮らしそっちのけで、連日、総裁選の報道に明け暮れました。

総裁選候補者は、党内向けの所信表明に終始して、誰一人として、国民生活の向上や、イスラエルのガザ攻撃やウクライナ戦争の人道的平和的解決に貢献しようとする意思表示をしませんでした。高市氏は、麻生派閥・旧安倍派の力に頼り、自民党政治の一層の反動化を進めるタカ派です。

（タカ派というより、アメリカ言いなりのワシ派ですね）

こうした状況の中で、私たちは「高齢者人権宣言」の精神と目標を改めて学びながら、すべての年代の人々の協力共同の闘いを前進させるために、日本高齢者大会で大いに学び、交流を深めたいと思います。

初日の11日は10講座・6分科会・3移動分科会・夜のうたごえ広場です。

戦争と平和、社会保障等の課題や健康の課題も含めて、より良い日本社会のあり方を議論し、運動の交流を深めましょう。

二日目の12日の全体会は芝田英昭立教大学名誉教授の記念講演「戦後80年、いのちの尊厳から平和を考える」、また初日には、暉峻淑子埼玉大学名誉教授の「いま豊かさとは何かを問う」の講演に続いて安田淳一監督の映画「ごはん」の上映会があります。

差別と分断、戦前回帰の危険な潮流が生まれる中、平和と人間の尊厳を築き上げる闘いの新たなスタートを切りましょう!!

高齢者大会オープニング合唱団募集中

「うたえば元気！」を合言葉に、日本高齢者大会2日目の11月12日（水）の全体会は圧巻の300人を超える大合唱がお待ちしています。

全体会のオープニングを大合唱で飾ろうと埼玉、東京、千葉、神奈川の300人の仲間が、おなじみの3曲を練習中です。

竹内まりあ「いのちの歌」、橋幸夫・吉永小百合の「いつでも夢を」、梅原司平の「折り鶴」です。

みんなで一緒に舞台に立ってうたう方を募集しています。

各地で、うたごえ協議会加盟合唱団による公開練習も行われています。

参加を希望される方は、地元のうたごえ協議会、または、さいたまうたごえ協議会に気軽にお申込みください。

さいたまうたごえ協議会の連絡先は、次のとおりです。

電話・FAX　048－883－1634

（メール）Peaceaitama@gmail.com

※　参加費は合唱のみ参加は500円頂きます。

うたはチカラをくれます。歌って、あなたも高齢者大会の主役に。お待ちしています。

歌は健康づくり　歌は活力

城南保健生協「うた広場」

城南保健生協の「うた広場」「ミニ歌広場」は、コロナでの中断はありましたが、長く継続されている活動です。医療生協の職員が中心となって企画・運営を担っています。

主に病院や診療所のスペースを使い、地域の集会施設も使って、大田区を中心に、品川区を含めた地域をまわって行っています。東京西部保健生協、東都生協と3生協共催で杉並を会場に行うこともあります。9月は3回実施、10月は4回、11月と12月は2回が予定されています。

「うた広場」は、城南医療生協職員のグループ「フェアトレード」のピアノとギターの伴奏で2時間で約20曲を歌います。「ミニ歌広場」は、ギターの伴奏で30分で5曲～7曲を歌います。

配られるプリントには、歌詞だけでなく、その歌の成り立ちや歌にまつわるエピソード、歌ができたころのできごとなどが書き込まれ、歌の意味や時代を知りながら歌うことができるようになっています。

「うた広場」は歌を歌うだけではありません。毎回、簡単な振り付けのある曲が入っています。全ての歌と歌の間に楽しいトークや掛け合いを入れています。前奏の長い曲は、前奏中に「曲紹介」を行います。童謡、季節の歌、歌謡曲、フォークソング、リクエストからなど、2時間で一連のドラマになることを目指しています。

「うた広場」の取り組みには、さまざまな健康づくりの要素がちりばめられています。楽しく声を出して歌い、昔を思い出して歌うこと、プリントから歌にまつわる知識を読みとることで脳がたくさん働きます。

振り付けや、手話や、立ってステップを踏むなど、自然に体を動かす場があります。前に出て歌うなどちょっと緊張する場面、トーク、掛け合いには心から笑う場面、そして歌の前後には、血圧測定などの健康チェックや、脳トレ、体操などがプログラムされています。

参加者からたいへん好評で、申し込みが会場定員を超えたときは、抽選を行って外れた方には担当から「ごめんなさい」の電話をしています。

高齢者大会に「フェアトレード」が登場

第38回日本高齢者大会inさいたまの11日夜のうたごえ広場は、「うた広場」を運営している「フェアトレード」の仲間がリードします。高齢者大会の夜、素敵な「うた広場」の再現がたのしみです。

第21回高齢期を考える府中のつどい

「高齢期だれもが通る道」

10月3日午後、市民活動センター「ブラッツ」で「府中高齢期連絡会」が「第22回高齢期を考える会」を開催、80名が参加。今回のテーマは「あなたの受けたい介護って?!!高齢期は誰もが通る道です!ともに歩みましょう」。

府中で介護事業に携わっている4人の専門家(ケアマネジャー、障害者相談支援員、訪問介護管理者、グループホーム管理者)が携わっている各種の事業について報告を受けてデスカッション。

「高齢者社会を支え『長寿社会日本』を実現するために、介護事業について予算措置を伴った、抜本的改善を求める」との集会アピールを採択しました。同会は10月15日の「府中市敬老大会」参加者にもチラシを配布。チラシを見たと参加された方もいました。(府中革新懇ニュースより)

第33回東京のつどい分科会・講座紹介（5）

「マイナンバー保険証問題の本質と運動の課題」（第3講座）

講師　寺尾　正之さん
（公益財団法人　日本医療総合研究所）

（1）高額療養費制度

高額療養費制度の全面見直しは、全世代型社会保障改革の一環として、年間約８００万～９００万人が利用し、重い病気の長期療養を支えてきた「命綱」をまるごと改悪しようとするものです。負担上限額は２０２５年・26年・27年８月に引き上げられ、例えば入院費１００万円の３割負担30万円が、現在は約８万７０００円まで軽減されるところを大幅に増額するというものです。（所得区分により額に段階）

この見直しは、２０２５～28年度に社会保障費１兆１０００億円削減を目指す改革メニューの一環です。

重症患者の受診抑制を引き起こすもので、批判を受けた修正案も、直近１年に４回以上適用された約１５５万人だけ据え置くものの、最も負担が重い初期３カ月の負担増を放置するもので、患者にとって到底受け入れられないものです。

一方、これによる現役世代の保険料軽減は年１００～５０００円（月92～４１７円、本人分46～２０８円）に留まるもの。

参院選を前に凍結を求める患者団体等の声が高まりました。（現在引き上げは凍結されており、引上げを断念させる運動が重要になっています）

（2）マイナンバー保険証

医療DXとは、医療や介護の仕組みをデジタル技術によって変えようとする取り組みです。デジタル庁主導で、個人の医療・介護情報を蓄積、それを政策や制度設計に使う仕組みづくりが進められています。マイナポータルにすでに29項目の個人情報を集約、今後は「全国医療情報プラットフォーム」を整備し、医療・介護データを一元管理する計画です。

この流れの中で導入されたのが、カード裏面のICチップに記録された電子証明書を使いマイナンバーカードを健康保険証として利用する仕組みです。電子証明書は5年ごとに更新手続きが必要で、失効のリスクもあります。医療機関の窓口では、顔認証や暗証番号入力など複雑な操作が求められ、高齢者を中心にトラブルや負担が増え、患者の利便性は低下しています。

政府は「データに基づくより良い医療提供」や「患者利便性の向上」を掲げていますが、患者が確認できるのはレシート形式の診療情報のみで、診断内容や検査結果の詳細は分かりません。薬についても、紙のお薬手帳の方が有用という声が多くあります。さらに、窓口での誤操作やシステム障害も頻発しており、利便性向上どころか混乱を招いています。デジタル化が目的化してしまい、本来の医療サービスが後回しになっています。

収集された医療・介護情報の活用には「一次利用」と「二次利用」があります。一次利用は、医療機関や介護施設、行政が本人の診療や介護のために使うものです。二次利用は、製薬企業や保険会社、IT企業などがビジネス目的で個人情報を活用するものです。政府や経団連はこの二次利用を視野に入れており、マイナポータルに集まった情報を企業に開放して、新たなビジネスや保険商品の設計、診療ガイドラインの改定などに活用しようとしています。

EU諸国では、利用目的の限定やアクセス記録の公開、自己削除権など厳しい規制が設けられていますが、日本では「自己責任」が前提、リスク対策が不十分です。米国ではメディケア情報のハッキング被害もあり、日本で同規模のシステムを構築することは、リスクを拡大させるものです。エストニアでは、誰が自分のデータを閲覧したかを確認できる仕組みがあります。日本ではその機能はありません。医療情報と他の行政データを紐付けて運用している国は、先進7か国の中で日本だけです。

医療・介護情報は命に直結する個人情報です。人権と倫理を最優先に考える必要があります。

デジタル弱者を切り捨てることなく、紙や口頭での手続きを併存させることで、誰もが安心して医療や介護を利用できる環境を整えるべきです。

また、一次利用と二次利用を法的に明確に区別し、自己同意の管理や目的外利用の禁止、アクセス記録の公開、損害賠償の責任主体の明確化などを進める必要があります。制度改定は閣議決定だけで進めるのではなく、国会での審議や公聴会を通じて、患者や専門家の意見を丁寧に集めながら慎重に進めることが求められます。

高齢者大会参加の取り組み進行中

11月11日(火)・12日(水)に開催される「第38回日本高齢者大会inさいたま」に向けて、団体や地域での取り組みが進んでいます。

今回の高齢者大会への東京からの参加は、チケット方式を採用しています。10月6日までに、105の団体・地域・個人が延べ6974枚のチケットを取得し、参加に向けた準備を進めています。

府中高齢期連絡会 各団体が協力して

10月3日に「第21回高齢期を考えるつどい」を成功させた府中高齢期連絡会は、三多摩健康友の会が運行するバスを利用して、12日の全体会への参加を中心に呼びかけを広げています。さらに、健康友の会府中支部の事務所にWEB会場を設ける計画も進行中です。

参加費については、年金者組合や健康友の会など各団体が費用を出し合い、参加者の負担を全額補助する方針です。

年金者組合 参加者補助広がる

年金者組合では、調布支部が参加者への補助を目的に組合員へカンパを呼びかけています。小平支部、清瀬支部に続き、国立支部もニュースで「参加費は組合で負担します」と呼びかけるなど、財政的な支援によって参加を促す取り組みが広がっています。

WEB会場 計画進む

東京高連ニュース70号に掲載された東村山の実行委員会に続き、港区、中野区、足立区、府中市、国立市などでもWEB会場の設置が計画され、実行委員会への登録が始まっています。

さらに参加の呼びかけを

チケットを扱っている団体や個人に、10月1日現在の参加予定人数をメールで確認しました。

回答のあった参加予定数（チケット普及数）の合計は延べ110人、WEB個人参加は延べ5人、WEB会場の登録目標合計は38人です。

多くの団体や個人がチケットを持ち、参加を呼びかけることで、さらなる広がりが生まれます。ぜひ、チケットを活用して参加を広げてください。チケットはナンバーで管理しますので、余っても返券の必要はありません。

チケットを預かれるという場合は、koureishataikai.sanka@gmail.com へ、メールでご連絡ください。

みんなで参加を呼びかけ、「第38回日本高齢者大会inさいたま」を大きく成功させましょう！

東京実行委員会のホームページもぜひご覧ください https://x.gd/taikai

多摩地域に保健所増設を!!

求める会が団体訪問をスタート

23区には、各区に1箇所保健所があります。

多摩地域では八王子市と町田市は、市に保健所がありますが、残る28の自治体をたった5箇所の保健所で担当しています。

そのためコロナ感染の広がりに対応しきれず深刻な事態を招きました。

この事態を受けて結成された「多摩地域の保健所増設を求める会」は団体署名を集めて、2023年11月、2024年5月の2回にわたって、東京都への要請を行ってきました。

こうした運動の力もあって、東京都は2024年度から保健所に配置する保健師を6名増員、各保健所に市町村連携課を設けて人員を配置しました。

しかし、東京都は、「住民に身近な保健サービスは市町村が行い、より専門的なサービスは保健所が実施するという考え方で、多摩・島嶼は、二次保健医療圏ごとに一か所の保健所」という基本的な考え方を変えようとしません。

厚生労働省の「地域保健対策の推進に関する基本的な指針」には、「二次医療圏の人口又は面積が平均的な二次医療圏の人口又は面積を著しく超える場合には地域の特性を踏まえつつ複数の保健所を設置できることを考慮すること。」と明示されています。

全国の二次医療圏の人口の平均値は約36万人、中央値は約26万人です。100万人を越える多摩府中保健所はまさにこの例に該当します。

全国には、100万人以下の医療圏で複数の保健所を設置している地域もいくつもあります。

「多摩地域の保健所増設を求める会」は、更に運動を広げることをめざして団体訪問を開始しました。

第1回の10月9日には、東京民医連、東京社保協、年金者組合東京都本部、東京革新懇を訪問し協力を要請、これから都内各団体を訪問し運動を広げ、来年春にはさらに規模を広げた対都要請を行う予定です。